# 日独共同大学院プログラム　中間評価結果

コーディネーター所属機関・部局・職・氏名　名古屋工業大学・大学院工学研究科

教授・柿本　健一

研 究 課 題 名：エネルギー変換システム：材料からデバイスまで

| 評　価　結　果 | |
|---|---|
| | S　想定以上の意義をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる |
| ○ | A　想定どおりの意義をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる |
| | B　ある程度の意義をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である |
| | C　意義が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額又は中止が適当であると判断される |

所見

日独共同の大学院教育課程などの教育環境の整備により、共同研究の成果の大学院生による発表や出版が多数行われていることなどから、プロジェクトをきっかけとした日独交流が活発に行われていることが推察される。COVID-19 による渡航制限が無ければ、より一層の研究・教育の成果が上がったものと考えられる。COVID-19 の影響は、本プロジェクトのような国際的な共同プロジェクトに大きな逆風となるが、臨機応変に対応し、オンラインをうまく活用し、多方面において教育、研究効果を上げている。学生が国際的な研究チームに参画することによって専門知識や技術を習得するとともに、２国間かつ異分野間の協働を通し幅広い知識やコミュニケーション能力が涵養できるスキームを確立できていると思われる。この厳しい状況で上記の成果を上げてきていることを考慮すると、総合的評価として、十分に本来の意義を上げていると評価できる。

2022 年から派遣が再開されたことから、今後 COVID-19 の影響下におけるオンライン教育・交流の経験を反映させることで、オンラインとリアルの良い面を活かした次世代の国際交流・教育システムが構築されることを期待する。

本プロジェクトの学位プログラム修了生は現状２名であるが、今後、増えていくことが想定される。社会から望まれる人材になっているのかなど就職先からのヒアリング、修了生自身への満足度アンケートなどのデータを取り、それらをフィードバックできるサイクル構築によって、ますます本プロジェクトが発展していくことを期待したい。